

## 看護学部退学者に関する分析

山下 八重子, 都築 英明

看護学部

明治国際医療大学（以下本学）の看護学部は2014年に開設後9期生を迎えた。この9年間の看護学部の入学者総数は571名で退学者総数は57名であり、入学者の約1割を占めている退学者が記載した退学理由は、第1位進路変更、第2位一身上の都合、第3位経済的理由、第4位が学力不足であった。在籍日数が退学年次より長期となっている者が多いことから、休学や留年が介在していると推察でき、休学の理由は留年が殆どで休学後の退学が約1/3であった。経済的理由については、看護学部は病院奨学金受給も可能なため、学力不足が根底にあると考察できる。つまり、退学の原因は学力不足が8割以上を占めていると判断できる。

退学者の入試状況は、センター入試1名、社会人入試4名、一般入試17名の計22名を除いた残りの35名は推薦入試であった。推薦入試はAO入試が15名、推薦入試12名、指定校推薦入試は8名であった。これらの推薦入試は、学力試験を実施していないために実際の学力が分からない。学力不足が原因の退学者は推薦入試が一番多いことが明らかになったことから、今後は推薦入試枠での入学志願者の学力の引き上げが必要である。推薦入試判断基準値としての評定値は高校のレベルに格差があり、入学後にその判定に驚かされることもあるほどである。推薦入試であっても何らかの方法で学力を測ることが望ましい。学力不足で退学者を出さないようにするために推薦入試における学力判定のための工夫が必要である。

## 看護学部卒業生の55名の現状

### 看護学部卒業生の現状調査その1

山下 八重子, 三浦 康代, 松岡 みどり

看護学部

2014年には看護大学が228校となり今後も増える傾向にある。教育の評価は輩出する卒業生に対する職場での評価が大きく影響する。明治国際医療大学看護学部（以下本学）は、2006年に開設され2014年4月までに239名の卒業生を輩出している。既に卒業生が5期に達したことから、本学初の卒業生動向調査を大学の研究助成を受けて実施した。アンケートは2014年11月～12月に卒業生全員に郵送したが、宛先不明として27通が配達されずに戻った。有効回答は55名で回収率26%（宛先不明者27名は除く）であった。今回の調査は卒業生の約4分の1の回答であり、卒業後の動向の全体像が掴めたとは言えないながらも、ある程度の現状把握が可能である。離職では既に転職3回の者もみられた。しかし、転職後の現在の仕事に対する意見は「やりがい」などの肯定的意見が否定的意見の2倍を占めていたことから、自分に合った職場を見つけ、仕事を評価されるなどして職場への愛着が見出せている結果と考える。卒業時の職場選択の問題、専門的能力の問題があると推察する。

アンケート回収率が26%という数字からは、本学への帰属意識の低さが伺える。創立記念日等を利用した講演会やイベントの開催や、大学際への卒業生参加等で来校する機会をつくるなどの仕掛けが必要である。また、在籍する教員と何らかの形で卒業生と面識を持つ機会を増やし関係を持続けることで、本学に愛着が芽生え帰属意識を高められると考える。今後も定期的な調査により卒業生動向について把握と評価が必要である。